

特別
付録!!

2018スペシャルカレンダー付き!!



OS4

エスフォー
EUROMOTIVE MAGAZINE

72

2018 JANUARY

刺激的でセンス溢れる
ユーロスタイルを提案します

[TOP ISSUE]

低車高の新流儀

IT'S NEW STYLE of **LOWERING EURO CAR**

AUDI R8 V10 PLUS / BMW M4 / AUDI A6 / MERCEDES-AMG C63S COUPE EDITION 1
MERCEDES-BENZ C250 COUPE / PORSCHE 987 CAYMAN / PORSCHE 911 TURBO



SEMA SHOW 2017

カーモディファイの最新トレンド徹底チェック & 今年も新作パーツがどっさり!

AUDI PRIDE

アウディならではの
ポテンシャルを引き出す方法
RS6 / A6 / TTS / TT

WHEELS IN STYLE

クルマを際立たせる注目すべきホイール

CRAZY ABOUT VW

VWに首ったげ!
GOLF / CLUB SPORT
GOLF WGT / TIGUAN

Cover Story
Audi R8 COUPE
V10 PLUS 5.2 FSI QUATTRO



EXCITING EURO

過給機チューンの最前線

AUDI S5 with **APR Ultracharger** / AUDI A6 with **APR Stage3+Ultracharger**
AUDI S6 SPORTBACK with **APR Stage2+DualSulfit** / VW GOLF VII R with **APR Stage3**
VW GOLF VII R with **REVO TECHNIK Stage3**

B9系アウディ
モディファイのパーツ事情

HYPERFORGED

For The Ultimate Performance and Superior Style

Built to inspire

Innovative design and high standard defines HYPERFORGED WHEELS.
Nothing is compromised in the making of these highquality wheels and it shows.
Travel in style with HYPERFORGED.



HYPER FORGED HF-DIC™
Disk finish: 3D Brushed Rim outer finish: HighPolish Rim inner finish: Anodized Black
12 Point Stainless Bolt Classical
F: 9.5Jx20 SemiConcave R: 13.5Jx21 DeepConcave
Pirelli P-Zero L F: 255/30/20 R: 355/25/21
Lamborghini Aventador LP740S

Special thanks : www.ap-dank.com www.pro-composite.jp

| | | | | | | | | | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|-------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|---|---|---|---|---|
| ▶ DiC concave NEW | ▶ LC5 concave | ▶ LC5 Centerlock | ▶ C5.2 concave | ▶ C7 concave | ▶ C10 concave | ▶ 24S | ▶ 27S | ▶ 25S | ▶ 105R | ▶ 109R |
| | | | | | | | | | | |
| 19" 20" 21" 22" ▶ The RIM:Reverse | 19" 20" 21" 22" ▶ The RIM:Reverse | 19" 20" 21" 22" ▶ The RIM:Reverse | 20" 21" 22" ▶ The RIM:Reverse | 19" 20" 21" 22" 24" ▶ The RIM:Reverse | 19" 20" 21" 22" ▶ The RIM:Reverse | 19" 20" ▶ The RIM:Reverse 20" 21" ▶ The RIM:Step | 19" 20" ▶ The RIM:Reverse 20" 21" ▶ The RIM:Step | 19" 20" ▶ The RIM:Reverse 20" 21" ▶ The RIM:Step | 19" 20" 22" ▶ The RIM:Reverse 21" ▶ The RIM:Step | 19" 20" ▶ The RIM:Reverse 21" ▶ The RIM:Step |

HYPERFORGED

www.hyperforgedwheels.com

TEL.072-256-6664

FAX.072-256-6444



BMW M4 COUPE

ベースのポリューミーなラインを活かした ワイド&ローのお手本といえるモディファイ

CALL >> Office AZ(オフィスアズ) [0749] 42-7568 www.office-az.com

PHOTO & TEXT >> HIROYUKI URANO(浦野浩之)



IT'S NEW STYLE of
LOWERING EURO CAR
低車高の新流儀

質量豊かなリアに21インチを持ってきたことで、前後のバランス感が向上。前後同サイズであればフロント側のフェンダーとタイヤのクリアランスが気になるところだが、自然とクラウチング気味になることで水平姿勢が保たれているのもポイントだ。張り出したフェンダーとコンケーブするホイールデザインのコントラストも狙いどおり。



フロントはMパフォーマンスのカーボンスポイラーとフラップを組み合わせてボリュームアップ。低い車高も相まって普段使いにも神経質になりそうだが、西川代表は荒れた路面(踏み切りなども含めて)でも気にせず走る。

Specifications

BMW M4 COUPE 2017

WHEEL HYPER FORGED >>
HF-LC5 F:20x9.5J R:20x10.5J
Finish:Brushed Anodized Black Disk/
Brushed Anodized Titanium Rim
TIRE CONTINENTAL >> sport contact 5
F:225/30R20 R:295/25R21
SUSPENSION SCHERZEN >>
Comp Model Adjustable Coilover
EXHAUST ARMYTRIX >>
Exhaust System
ENGINE N2 SPEED >> Booster Chip,
aFe Power >> Air Intake System
EXTERIOR M performance >>
Carbon Front Spoiler/Side Skirts/
Rear Spoiler,
Vorsteiner >> GTS Rear Diffuser,
AC SCHNITZER >> Racing Rear Wing



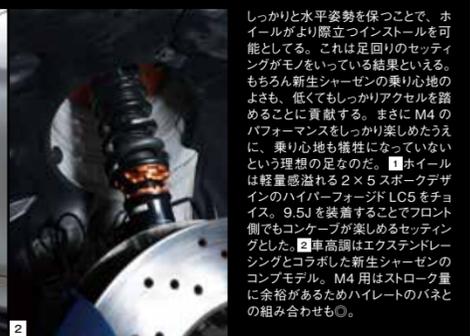
独自開発の車高調によるサスチューンと絶対的ワイド感を演出するパーツチョイス

オリジナルブランド『シャーゼン』の車高調を軸に据えた"走れるロワリングスタイル"を提唱するオフィスアズ。なかでもデビュー以来、数多く手掛けてきたM4のセットアップには同店の志向がハッキリと見てとれる。M4は言わずと知れたBMWを代表する走りに特化したモデルであり、グラマラスな肢体も魅力のひとつ。だからこそゴテゴテと飾ることは避け、カーボン素材を中心にしたアレンジを心掛ける。具体的には純正アップグレードのMパフォーマンスをベースに、リアディフューザーにはヴォルシュタイナーを装着。さらにMパフォーマンス製リアスポイラーとACシュニッツァーのレーシングウイングを上下に並べることで、コンパクトにまとめた走りイメージが漂うアズらしい仕立てが印象的だ。とはいえ、ここまではあくまでスパイス。このクルマの骨格であり、楽しみのポイントはなんといっ

てもアズの造りにある。これまでオフィスアズの"低く走れるアズ"作りには定評があったが、シャーゼンをフルリニューアルしたことで「ようやく理想に追いついてきた」と西川代表も認めるほどの進化を遂げた。ファクトリーをWTCCでの優勝経験もあるトム・コロネル氏率いるエクステンドレーシングに移した現行モデルは、"低く、走れる"特性を強化するため、ガス圧とバネレートの最適化をさらに進めた自信作。本機にはコンモデルというベステックス製スプリングを組み込んだオプションバージョンが装着されており、バネレートはフロント12kg/cmf & リア16kg/cmfというハイレートに設定されているが、実際に乗るとノーマル級の快適性に驚かされる。しかもM4としては相対的にタイトなセッティングをモノとせず、一般道の荒れた路面に追従し、その快適性や安定感はアウトバーン

級の速度域になっても持続するのだから規格外といっただけ。そしてもうひとつ、スタイリング的にも走りの面においても重要な要素となっているのがホイールだ。ハイパーフォージドLC5はフロント20 & リア21インチの異径サイズに設定し、攻撃的でグラマラスなボディラインとの一体感を重視。当然ながら軽量で剛性感のあるホイールは、走りの質を求める同店の方向性に合致しているからこそこの選択であり、激しくコンケーブするデザインによってBMWらしさも強調されている。モノトーンでまとめられたスタイリングはお手軽なインパクトとは無縁だが、中身はとにかく骨太。逆にいえば時代に左右されることがなく、長く愉しむことができるセットアップ術はワイド&ローのお手本だ。車高の低さはさすがデモカーらしいが、それを含めて参考にしたくなるロワリングBMWの基本形といえる存在だと感じた。

理想の足を実現した新生シャーゼンと絶妙なセッティング技!



しっかりと水平姿勢を保つことで、ホイールがより際立つインストールを可能とする。これは足回りのセッティングがモノをいっている結果といえる。もちろん新生シャーゼンの乗り心地のよさも、低くてもしっかりとアクセルを踏めることに貢献する。まさにM4のパフォーマンスをしっかりと楽しめたいという理想の足なのだ。1.ホイールは軽量感溢れる2x5スポークデザインのハイパーフォージドLC5をチョイス。9.5Jを装着することでフロント側でもコンケーブが楽しめるセッティングとした。2.車高調はエクステンドレーシングとコラボした新生シャーゼンのコンモデル。M4用はストローク量に余裕があるためハイレートのバネとの組み合わせも◎。

3.サイドスカートはフラップタイプのMパフォーマンス製を選択することで低車高での快適な走りを目指す。4.リアはヴォルシュタイナー製ディフューザーとアーミートリックス製エキゾーストの組み合わせ。バルブ付きなので音量も自在に変更可能だ。5.MパフォーマンスとACSのウイングを同時装着している。

BMW M4 COUPE

SPECIFICATIONS
AUDI S5 COUPE 2012

WHEEL HYPER FORGED>>HF-LC5 F&R:20x10.5 Finish F:Brushed Anodized Light Bronze Disk/Anodized Light Bronze Gloss Outer Rim/Anodized Black Inner Rim **TIRE** MICHELIN>>Pilot Super Sport F&R:265/30R20 **BRAKE** Brembo>>GT Kit F:6 Piston Caliper +380mm Roter **SUSPENSION** AS Sport>>SPKG-0004 Adjustable Coilover **ENGINE** APR>>ULTRACHARGER/Carbon Intake System **EXHAUST** J Factory>>Oneoff Front+Center Pipe,AKRAPOVIC>>Rear Piece Processing **REINFORCEMENT** EUROCODE>>Billet Transmission Mount Insert/Billet Rear Differential Upper Mount Insert/Billet Rear Differential Lower Mount Insert, cpm>>Lower Reinforcement **EXTERIOR** AS SPORT>>Carbon Front Spoiler/Carbon Rear Gurney Flap



①②オーナーはストックの美しいボディラインを活かしたかったこと、やり過ぎ感嫌ってボディパーツはこのフロントリップとリアガーニッシュのみ装着。どちらもASシュボルトのカーボン製で、小ぶりなこと性能重視な設定がグッド。そしてホイールはハイパーフォージドH F-LC5の20インチ。ライトブロンズのアナダイズ加工とブラッシュドのフィニッシュが高級感にあふれる。③アクラポヴィッチのリアピースを装着するために、フロント&中間をジェイファクトリーが製作。サウンドとパワー感のチューニング具合は絶妙。このエキゾーストシステムを開発したことが、iron匠生のきっかけとなっている。まさに記念碑的なものだ。④パワーアップにともないブレーキはブレムのGTキットを装着する。

【ウルトラチャージャーを中心としたビッグスロットル&ECUアップグレード】



APRウルトラチャージャーはビッグスロットルによる効率的な燃調と、高効率化を実現するスーパーチャージャーのブリー交換、そしてECUプログラムの専用アップグレードをすることによって、これまでにないトルクとパワーを絞り出す夢のユニットだ。さらにクーリング対策として大容量インタークーラーを備えると、さらに強力なスベックを備えることになる。すべてのパーツをしっかり機能させるには、経緯とノウハウを有するAPRディーラーでのセッティングが基本となる。このクルマを製作したジェイファクトリーは、まさにそのトップランクのコンストラクターなのだ。

AUDI S5 COUPE with APR ULTRACHARGER
「APRウルトラチャージャーによるパワー・エリートクーペ」

美しいたたずまいとはうらはらに、その心臓部は超強力仕様!

オーナーはアバレル系メーカーに勤務するだけに、身に付けるものや持ち物に並々ならぬこだわりをみせる人物。なるほど、S5クーペの美しいボディデザインに惹かれるというものうなずける話だ。しかし何ゆえにパワーアップのためのモディファイをここまで徹底して行ったのだろうか? オーナーとしてはカッコだけのクーペとは思わせないうと、せっかくチューニングするならば効果のあるパーツを装着することを信条としている。このクルマの秘めたるポテンシャルを大好きな洋服ショッピングのためのドライブで楽しむのが至上の喜びだという。「テンションが上がっちゃって、けっこうな買い物をしてしま

うのがいつものパターンです」という。では、そのパワフルぶりは実際にはどのくらいのスペックとなっているのだろうか? チューニングを担当したジェイファクトリーの横塚さんは「理論上は498psで300km/h域での高速巡航が可能ほどの仕様となっています。単純にAPRのパーツ装着だけでなく、エキゾースト系のチューニングと一体となってその効果をより高めています。実はこのクルマのエキゾースト系は、当社でワンオフ製作しているものです。S5系に設定のなかったアクラポヴィッチのリアピースを装着するため、フロント&中間でサウンド的にもパワー感も

含めて試行錯誤したんです。このノウハウがオリジナルマフラーの開発にもつながっています」と、日本有数の輸入車チューナーとして名を馳せるジェイファクトリーにとっても、非常に重要な意味をもつ1台であったことがうかがえる。このクルマにはAPRの最新過給機システムのウルトラチャージャーが組み込まれている。このシステムはECUの最適化とスーパーチャージャーブリーアップグレード化、そしてビッグスロットル化と、なにしろ吸気と燃料供給をより高効率化してくれる。スーパーチャージャーのウィークポイントと

いわれる高回転域でも頭打ちになることなく、全回転域でアクセル開度に応じたパワフルな設定となるというものだ。これぞアウディのスーパーチャージャーエンジン搭載車にとって夢のチューニングメニュー。なにしろ、ノーマル比で165psものパワーアップを可能としているのだから、スゴ過ぎる。APRウルトラチャージャーは、現代の過給機チューンにおいて最高にホットでありエポックな存在なのだ。もちろん、インタークーラーやECUのプログラムのグレードアップなど、複合的に組み合わせると、さらなるパワーアップが可能だ。

CALL>>J FACTORY(ジェイファクトリー) [0277]77-0588 www.jfac.co.jp

美しく疾走するおしゃれなクーペの心臓は、モンスター級のハイパワー仕様!

国産スポーツカーやハイパワーマシンでクルマ遊びを楽しんできた“ベテラン”が、歳を重ねて輸入車にたどり着くケースはかなりの多いが、ここに登場するS5スポーツバックの鳥羽サンもそんなクルマ遊びのベテランオーナー。ターボチューンを施したシルビアで走行会に参加したり、ハードなチューニングを施したインプレッサを乗り継いだり、ひと通りのクルマ遊びを経験し、「次は輸入車で」と考え、BMWやメルセデスなども検討した上で、アウディにたどり着いた。ベース車選びの段階からeS4を読み込み、理想的な

スタイリングを描き出すショップとして「5x」に白羽の矢を立て、クルマを持ち込んだ。テーマは、さり気なく、なおかつ速いクルマづくりだ。

AWDのインプレッサに乗っていたこともあって4WDのアドバンテージは十分に理解していたのと、チューニングのしやすさから過給器付きモデルに徐々に車種を絞り、最終的にはスタイリングからS5スポーツバックをセレクト。スーパーチャージャー付き3L V6エンジンは、信頼性が高く、明確なゲインが得られるAPR製のデュアルブリーキットで武装。ドライブ/クランクの2

つのブリーを交換することで過給圧を高める狙いだ。徹底的にテストを行い確実に効果があるものだけを製品として送り出すAPR。このデュアルブリーキット装着では、465hp (93オクタンがソリン使用時)のパワーが得られるとアナウンスしている。国産車でこの数字を出すとなると、それこそカリカリに近いチューニングを施さざるを得ない。そのレベルにさらりと到達するのが輸入車の大きな魅力だろう。

KW ver.3と5xの手による絶妙な車高と、ブラッシュドのハイパーフォージ

ドHF-LC5とホワイトボディが、エレガントで質感の高いスタイリングを描き出すS5スポーツバック。その佇まいからは、ノーマル比100ps以上のゲインを得ているハイチューニングマシンとは誰も思わないのではないだろうか? もしそうだとするならば、それこそがオーナーの狙い。

大きさにやりすぎることなく、スタイリングとパフォーマンスを両立させたいなら、今すぐ3L V6スーパーチャージャーモデルが狙い目。なぜなら、そこにはAPRのステージ2キットという媚薬があるからだ。



01_02_クランク側とスーパーチャージャーのドライブ側ブリーの2つのブリーと、ベルト類のみの極めてシンプル構成。純正のブリーに代えて、APRのステージ2デュアルブリーキットを組み込む。最高出力は93オクタン時で465hpと、100psオーバーのエクストラパワーを獲得。当然ECUには、専用のソフトウェアをインストールする必要がある。グリル奥に見えるのは冷却系を強化するクーラントパフォーマンスキット。

スーパーチャージャーの効率アップはAPRデュアルブリーでキマリ!

SPECIFICATIONS AUDI S5 SPORTBACK 2014

WHEEL HYPER FORGED>>HF-LC5 F:20x9.5 R:20x11.0 Finish:Standard Brushed+Gloss Clearcoat Disk/High Polish Outer Rim/Anodized Black Inner Rim TIRE Continental>>sport contact 6 F:255/35R20 R:295/25R20 SUSPENSION KW>>Ver.3 Adjustable Coilover,iSWEEP>>ECS Canceller ENGINE APR>>Stage2 ECU/Dual Pulley/Carbon Intake+Back Pipe/Coolant Performance System Kit POWER TRAIN APR>>TCU DL501



ホイールは、5本ツインタイプのHF-LC5をチョイス。ホワイトのボディにシンプルなブラッシュドホイールの組み合わせは永遠の定番となってきた。ちなみにタイヤはF:255、R:295で完全なスタaggerスタイルを実現した。



OWNER>>YASUYUKI TOBA (鳥羽靖行サン)
CALL>>5x (ファイブエックス) [049]227-2555 www.5-x.jp

AUDI S5 SPORTBACK with APR Stage2 ECU+Dual Pulley
「APRのアップグレードブリーで全域をパワフル化!」



SUVでもグッドルッキングは不変!
ミリ単位のインセット対応でベストセットに



CALL >> Hyper Forged wheels (ハイパーフォージドホイールズ)
 [072] 256-6664 www.hyperforgedwheels.com
 SPECIAL THANKS >> bond shop Osaka (ボンドショップ大阪)
 [06] 6972-9977 www.hosokawa.co.jp/bond-osaka/
 PHOTO & TEXT >> HIROYUKI URANO (浦野浩之)

Mercedes-AMG G63



グリル周りを中心にメッキパーツはラッピングによるブラックアウトを施工。もともと迫力のあるフロントマスクに凄み加わり、よりオトコマエな顔つきとなっている。



Gクラスの見所のひとつであるエキゾーストは、GTHAUS Meisterschaft製の左右出し仕様を選択。102mmという大口径エンドが3本並ぶ様は壮観だ。



HF-DiCは19~22インチすべてにセミコンケープとディープコンケープのディスクデザインを用意。さらに左右のディスク毎に強度試験も通すなど、万全の安全性を確保しているあたりも信頼のブランドならでは。今回はショットアナライズディスクとマットアナライズドブラックリムの黒系コーデで引き締めた。

ディレクショナルデザインを採用する最先端ホイール

SUVなんてシャレた呼び方になる遥か前から存在し、世界有数の製造台数を誇るSUVなのは間違いないのがGクラスだ。近年では、多くの有名人が日常のアシにしたことで再ブレイク。いまや街でもっとも目に付く(気になる)メルセデスとなっている。そんなGクラスだからこそ、色気の出方こそ差がつくポイントとなる。

そこで登場願うはメッキ部をラッピングにてブラックアウトしたこのAMG G63。これだけでも十分にコワモテ目目を引くスタイリングだが、ダメ押しと言わんばかりに足元にはハイパーフォージドを履きこなす。ハイパーフォージドといえば本誌では超お馴染みの鍛造ブランドだが、意外にもSUVとのマッチングを紹介するのは初めて。軽さや剛性を含めた圧倒的パフォーマンスから、同

ブランドという、ついスーパースポーツをはじめとするハイパー系の足元を連想するが、このように旬のSUVを想定したサイズもしっかり用意されている。

ハイパーフォージドHF-DiCは5ツインスポークを回転方向にあわせてツイストさせた、ディレクショナルデザインを採用。各スポークを進行方向に向かってツイストさせることで、単純な5ツインスポークと比べて飛躍的に躍動感が高まっているのが特徴だ。さらにGクラスなどの重量級モデルを想定して対応ウェイトを高めた22インチモデルは、堅牢なイメージとともにスポーク長がしっかりと確保され、文句なしの足長感を愉しむことができる点も魅力。ある意味重厚過ぎるボディを余裕を持って受け止め、なんの違和感もなく調和するあたりは

デザイン、サイズ感ともにジャストな証左といえる。また、AMGのような大型ブレーキを搭載している車両に対して、3ピース構造かつmm単位のインセットオーダーができるハイパーフォージドであれば、ブレーキクリアランスとディープコンケープ、さらには深リムを同時に盛り込んだ極限のフィットメントを狙うことも可能だ。このあたりはノウハウを持つプロショップの力量に負う部分も大きい。ともあれハイパーフォージドであればすべての要素を追い込むことができる。トドメにショットアナライズド×アナライズドリムで仕立てたホイールが真っ赤なキャリパーを引き立て、窓の奥に覗くレッドレザーのシートとも鮮やかなコントラストとなり、フワッと色気を漂わせるイマドキなGクラスが完成した。

HYPERFORGED HF-DiC

ハイパーフォージド エイチエフ ディーアイシー

■SPECIFICATIONS Mercedes-AMG G63 2013
 WHEEL HYPERFORGED >>HF-DiC F:22x11.0 Low-D Deep Concave R:22x11.0 S-Low-D Deep Concave Finish:Shot Anodized Black Disk Anodized Black+Matte 12 Point Stainless Bolt
 TIRE PIRELLI>>Scorpion Zero F&R:305/40R22
 SUSPENSION G63>>Big Shock Kit
 EXHAUST GT HAUS>>Meisters Chaff Exhaust System GTS 6x 102mm Hexa Round SUS
 EXTERIOR Oneoff>>Plating part Blackout Wrapping



WHEEL IN STYLE

| SIZE | RIM | HOLE-PCD | PRICE(税別) |
|-------|----------|--------------|------------------|
| 19~22 | 7.5~15.0 | 5-108~5H-130 | ¥136,000~349,000 |

VW SCIROCCO 1.4 TSI

現時点ではこれが最終モデルで 希少なスポーツ仕様の車種なのだ!

OWNER>>TAKESHI GOTOH(後藤文志さん)
CALL>>MCC COMPLETE(エムシーコンプリート) [048]526-1514 <http://mcc-complete.wixsite.com>
PHOTO>>MOTOSUKE FUJII(藤井元輔/SALUTE) TEXT>>DAISUKE WATANABE(渡辺大輔)



フロントリップはMCCコンプリートのハウスブランド「ネクストイノベーション」のワンオフリップ。もちろんシロッコ用はラインナップされていないためワンオフ対応の逸品で、ここからワンオフオーダーの受け付けが始まったのだとか。



シロッコにひと目惚れしてW211 E55から乗り換えたという後藤さん。今後はRevoからRevo2へのステップアップも検討中だ。

ターボチューンで走りの性能をアップしたハイパフォーマンス仕様

日本でフォルクスワーゲンといえばゴルフシリーズがダントツの人気。初代から現在の7世代目まで、すべてのモデルが正規輸入されていることはもちろん、日本の道路事情にもマッチした手ごろなサイズと手に届きやすい輸入車といった立ち位置は、初めての輸入車としても親しまれている。そんな日本的フォルクスワーゲンの印象としては異色と呼ばれたのが、スポーツクーペという尖ったキャラクターが与えられるシロッコ。3世代目となる本モデルは、ゴルフよりも大きくかつスポーツクーペという使い勝手から、日本では爆発的ヒット……とは、残念ながらないなかった。

とはいってもロングルーフを持つそのスタイリングは、今現在のユーロハッチに先駆けたフォルムを完成させている。そのためデビューは2008年なが

らも、今見ても色褪せることは全くないほど秀逸。日本では販売が終了しているものの、ヨーロッパエリアでは現行モデルとして販売されていることから、ちょいフルにカテゴライズするには忍びないのが実際のところだ。

そんなシロッコにひと目惚れしたのがオーナーの後藤さん。ノーマルにはノーマルの良さもあるが、この流麗なフォルムをブラッシュアップできるのはオーナーだからこその特権。自分だけのシロッコを作り上げることは手に入れた瞬間からの目標であることは間違いない。そこで門を叩いたのが、フトワークのスペシャリストMCC-COMPLETEなのである。

こだわりはパフォーマンスアップと絶妙なクリアランスで取めるフロント9.0J、リア10.0Jのハイ

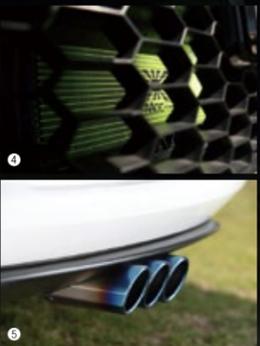
パーフォード。通常、シロッコではリアに9.5Jが限界と言われるなか、10.0Jを取めるコンセプトの元で丹念に作り上げられたのだ。もちろんストリートカーとして日常にも使用することを考え、パンプ時のクリアランスも確保済み。

エンジン系は吸排気にプラスして、ECUをRevo Technik Stage1でアップグレード。VWスペシャリストが提供するパフォーマンスを気兼ねなく十分に活かせることも考えられ、足回りを作り込んでいるというわけ。

単なる穴狙いのベース選びではなく、定番のゴルフシリーズにはないスタイリングとスポーツクーペならではの走りの魅力を磨き抜いた、「ツウ好みのモデルファイなのだ。



①こだわり抜いた足元はフロント9.0J、リア10.0JのハイパーフォードHF-C10をセレクト。リム幅に合わせてダンパーからインナーフェンダーまでを作り込み、通常では実現できないワイドリムを取めることに成功。もちろん通常走行も可能なセッティングが行なわれているのはMCCコンプリートだからのなせる技。②アクセントとして取り入れられるブレーキキットは、オリジナルのサムライブルーでペイントされるレンボの4ポット。ローターはφ355を組み合わせている。



③④スタイリングをアップデートするだけでなく、フォルクスレーシングのインターキットやワーグナーのインタークーラーなどもインストールし、コンピュータはVWチューンには欠かせないRevo TechnikのECUアップグレードでチューニング済み。⑤マフラーはワンオフのチタンエンドを持つセンター3連デザインでワンオフ。バルブ装着によって消音性も確保しているのもポイント。日常でも気兼ねなく使えるパフォーマンスを備えていることもシロッコチューンのスバイス。



SPECIFICATIONS
VW SCIROCCO 1.4 TSI 2011
WHEEL: HYPER FORGED>>HF-C10 F:19x9.0J R:19x10.0J Finish:Matte Black TIRE: NITTO>>NT555 F:235/35R19 R:265/30R19 BRAKE: Brembo>>F:6Pot Calliper+355mm Rotor,Voing>>Rear Drilled Rotor,ONEOFF>>F:Calliper Samurai Blue Paint SUSPENSION: KW>>Ver.2 Adjustable Coilover EXHAUST: ONEOFF>>Center & Rearpiece Triple End Exhaust System ENGINE: Revo Technik>>Performance Software Stage 1,WAGNER TUNING>>Intercooler EXTERIOR: NEXT INNOVATION>> Front Lip Spoiler

100万円台前半からでも狙えるお買い得車!

ヨーロッパでは現行モデルながら、日本では3年ほど前に販売が終了していることから、中古市場では意外なほどに安値の車両もちらほら。もちろん初期モデルとなると製造から10年に差し掛かるものもあるため、走行距離などのコンディションと価格はある程度比例している面もある。そういった車両なら本体価格で100万円を切るものも見つけることができるが、走行距離の短い高年式モデルともなると350万円を超えるものもあり、玉石混濁というのが正しい認識。またパッケージによっても価格帯が変動するため、チューニングを前提に必要な装備などを絞って探すのが賢い買い方。基本的には大きくデザインが変わっていないため、コンディションの良い初期モノをじっくり探すのが得策。